

G3m上の不動化β-ガラクトシダーゼ

Cat. No. NATE-1775

Lot. No. (See product label)

はじめに

説明 β-ガラクトシダーゼは、β-D-ガラクトシドをガラクトースとアルコールに加水分解する触媒です。G3m: CRカラムあたり25 μgのG3mマトリックスに固定化されたβ-ガラクトシダーゼ。CRカラムあたり20ユニットが固定化されています。Nr. 14 保存バッファー: 50 mM Tris/HCl, pH 7.8 保存バッファーにDTTを加え、最終濃度: 1 mM DTT Nr. 64 反バッファー: 50 mM リン酸塩, 1 mM MgCl₂, pH 7.8 反バッファーにβ-メルカプトエタノールを加え、最終濃度: 10 mM Nr. 63 洗浄バッファー: 50 mM リン酸塩, 1 M NaCl, pH 7.8

別名 β-ガラクトシダーゼ; ペータガル; β-ガル; GLB; 9031-11-2; EC 3. 2. 1. 23; ラクターゼ; β-ラクタシダーゼ; マキシラクタ; ハイドロラクタ; β-D-ラクタシダーゼ; S 2107; ラクトザイム; トリラクターゼ; β-D-ガラクトナナーゼ; オリザチム; スミクラット

製品情報

由来 E. coli

EC番号 EC 3. 2. 1. 23

プロトコル 1. 配送されたバッファーを（各2 ml以上）無菌の二重蒸留水で希釈します。1回のアプリケーションには、1 mlの10x反バッファーと9 mlの二重蒸留水が必要です。+ 10 mM β-メルカプトエタノール 2 mlの5x洗浄バッファーと8 mlの二重蒸留水。1 mlの10x保存バッファーと9 mlの二重蒸留水 + 1 mM DTT 基質は反バッファーに入れておく必要があります。2. CRカラムを10 mlの反バッファーで平衡化します。10 mlの反バッファーをシリンジに入れ、重力で反バッファーをカラムを通して上部フィルターまで流します。バッファーの流れが非常に遅い場合は、シリンジで力をかけてください。3. 反バッファー中の基質溶液をロードします。小さな体積 (< 70 μl) : CRカラムをベンチトップ遠心分離機で5秒間回転させます (2000 rpmで十分です)。基質溶液をマトリックス材料に入れます。大きな体積: 基質溶液をカラムを通して流します。流量: 最大70 μl/分 基質をカラム内に約1分間室温で保持します。基質を再度カラムに適用するか、長時間インキュベートすることで、より高い回転率が得られます。4. 製品溶液を溶出します。小さな体積 (< 70 μl) : カラムから製品を遠心分離します。大きな体積: 基質をカラムを通して流し、残留溶液をマトリックスから遠心分離します。注意: 700ダルトン未満の分子は7 mlの反バッファーで溶出する必要があります。カラムが乾燥しても害はありません。5. カラムを10 mlの洗浄バッファーで洗浄します。6. カラムを10 mlの保存バッファーで平衡化します。カラムを4°Cで保管します。CRカラムを凍結しないでください!

保管・発送情報

保存方法 4 °C